新シリーズ 村民の声 vol.7

暴走する連合、それは小谷村から始まった！

中村 敬（ごみ連協副会長）

このところ、広域連合のゴミ問題に対する対応がヘンです。小谷村では、建設促進を求める「小谷の会」がごみ処理施設の建設に賛成しているとされる署名を集め、陳情書とともに連合長と太田村長に提出しました。その署名集めの協力を小林村長が連絡員 (白馬村の区長にあたる) に文書で依頼したのです [下の文書参照]。このところの行政の暴走はこれが始まりです。

私たちは、小林村長に公開質問状を届け行政の長が任意の団体の署名活動に行政の組織を使って協力を依頼することは、はなはだ不見識な行為であると抗議しました。しかし、これに対して、村長は署名集めは任意の団体が行なったことで、何の問題もないと回答しています。

小谷村村長が地区連絡員に出した文書（写し）

平成 20 年 8 月 27 日

地区連絡員 様

小谷村長 小林 三郎

「新ごみ処理施設建設促進を求める小谷の会」
の署名活動への協力について (依頼)

日頃、地区連絡員の皆さんには、村の行政事務の円滑な運営と村民の福祉の増進を図るために多大なご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、北アルプス広域連合のごみ処理広域化計画は、昨年 2 月 23 日に広域新ごみ処理場建設候補地が、白馬村飯森に決定し、その進捗が図られると安堵していました。しかし、候補地での建設を心配する皆様の運動が現在も続けられており、その現状を憂慮しているところです。

小谷村としても、将来の負担や環境問題を考慮しますとこの計画を進めて頂くことが大変重要であると考えております。

このような状況の中で「新ごみ処理施設建設促進を求める小谷の会」が設立され、計画推進のための署名活動をして頂くことに対して大変ありがたく思っております。

つきましては、公私ともにお忙しい折とは存じますが、「新ごみ処理施設建設促進を求める小谷の会」の署名活動にご協力賜りますようお願い致します。

連合長も小林村長を擁護！

私たちは正副連合長宛にも、小林村長の連絡員への依頼文を添付して、公開質問状を届けました。その回答の核心部分は、小林村長の回答と同じです。任意の団体が署名集めをしたのだから問題ないというものです。

連合長は、その同じ答えを連合議会の「ゴミ処理特別委員会」(11 月 25 日) で、大和幸久議員の質問に答える形で繰り返しました。しかも、その際連合の係長は、「行政が行政に賛成するグループを応援してなぜ悪いのか」という主旨の発言をしたのです。私は思わず耳を疑いました。

このように行政関係者は、まるで口裏を合わせるように小林村長の対応を擁護したのです。皆さん、この正副連合長の対応に納得できますか。

さらに問題なのは、白馬村議会の「ごみ処理施設特別委員会」での広域議会の報告 (12 月 4 日) で、この小林問題をまったく素通りしたことです。報告者にその問題に対する意識が欠如していたと考えるほかありません。もし、意図的なら事実の許しがたい「歪曲」です。

裏面に続く

「議員」に聞く勉強会

講師　広域連合議員　大和（おおわ） 幸久（ゆきひさ）氏

演題　「議会での質疑応答にみるごみ問題」

日時　2008 年 **12** 月 **19** 日 (金) **19:00 ～ 21:00**

会場　白馬村ふれあいセンター 学習室

現在：
大町市議会議員 3 期目
北アルプス広域連合議員 6 年目

地域の大きな問題となっている「ゴミ処理場計画」を進めてきた「北アルプス広域連合」。そしてそれをチェックする「北アルプス広域連合議会」。その議会の中で何が行われてきたのか！？　そして村（市）や村（市）議会との関係などなど、広域連合議員 6 年目を務めている大町市の大和議員に、お話を伺います。

行政のやっていることは「事前運動」！

行政が自分たちの事業に賛成する任意の団体の署名集めを、行政組織の大事な一部をになう (白馬村の区長に相当する) 連絡員に署名集めの協力を要請する。これが問題の核心です。なぜそうあってはならないのか。

まず、前提として、行政が進める事業について住民の間にさまざまな意見が存在すると考えるべきです。事業はその住民が納めている税金を使って進めるのです。だから、住民にはその事業について等しく意見を述べる権利があります。その意見は賛成・反対などさまざまです。

ですから、事業を進めるのにあたっては、賛成・反対を問わずすべての住民の意向を集約する必要があります。パブリック・コメント (住民意見提出制度) はそのための制度です。広域連合にはこの制度がありませんので、行政は、住民の意向集約をアンケートで行なおうとしているのです。一見公平です。しかし、行政は行司役なのですから、住民の判断を静かに待つべきです。そうでなければ、調査の公平性は期待できないからです。しかし、今回行政は「静かに」待てず、行政組織を使って小林村長の依頼文に象徴されるような「事前運動」を始めてしまったのです。

連合の目的は「アンケート調査」で勝つこと

行政は、アンケート調査の公平性を担保するために、第三者機関にその作成と集計を依頼するのだと言っていますが、これはとんだお笑い草です。事前運動の後のアンケート調査が公平であるわけがないからです。こういう「事前運動」を堂々とやっている自治体は全国でも珍しいでしょう。良識のある住民なら、大変恥ずかしいことだと思うはずです。

誤解があるといけませんから急いで付け加えておきます。アンケート調査と署名集めは一見無関係に思われるでしょうが、両者は密接に関係があります。連合の最終目標は、アンケート調査で「勝つ」ことです。そのために、あらゆる手段を使って、飯森での建設に賛成する「世論」を盛り上げようとしてきました。

その典型的な対応は、2 巡目の説明会で賛成派の住民の意見には、それが理由のない単なる要請であっても、「貴重なご意見を有難うございます」と、連合の幹部が応じていたことです。笑止千万です。

行政が行政組織を使ってまで、賛成派の意見の拡大を意図したのはすべて「アンケートで勝つ」ことを最大の目標としているからです。白馬村でも小谷村の場合と同じように、行政組織を利用しての署名集めをしたと伝えられています。村長は、それに対して「コメントする立場にない」という主旨の発言で、私たちの抗議を無視しました。

行政は「すべての住民のために」を忘れている

もう一つ事前運動の例をあげます。このところ 2 回にわたって行政は建設反対のチラシに反論するチラシを新聞折込で住民に配布しました。億単位の予算を動かす連合が、自腹を切って運動を進めている任意の団体の真摯な意見発表の場としてのチラシに税金を使って反論する。

これは、「私」と「公」の闘いですが、自分たちに都合の悪い言論には税金を使ってでも反論する。紛れもなく税金の不当な支出です。いや、権力者が反対派の言論を封殺しようとする行為です。背筋が寒くなる思いがします。

行政は、政策としての建設計画を公の場で説明する中で、反対派を説得する。それが公共性を政策の基本とすべき行政のとるべき方法です。2 巡目の説明会を通しても説得できないからという理由で、すべての住民から集めた税金を使ってチラシで反論するのは、連合がすべての住民に奉仕するのが当然の義務を果たしていないことになります。しかも、私たちは連合長に再三面談を申し入れているのに、現在まで面談を拒否しています。この卑屈で不誠実な対応を、皆さんどうお考えでしょうか。

ボス政治からの決別を

行政はすべての住民に公平であるべきです。そうでなければ、民主政治の根幹を支える公共性は存在しないことになります。公共性を失った政治はただのボス政治です。私たちは、それを放置しているどころか、自らボス政治に加担している正副連合長の行政の責任者としての見識を疑います。

最後に、こうした政治風土のなにが問題なのかを一言触れます。お上が、行政組織を使って署名集めをする。それに対する異論が住民から起こらなかったことは、住民はお上の言いなりになるということです。お上の言いなりになったことで起こったのが、アジア太平洋戦争です。これは決して過去の物語ではありませんし、この地域だけの問題でもありません。現代日本の問題であり、世界の問題です。

皆さん、こんな政治とそれを“良し”とする政治風土を放置できますか。今度のアンケート調査は行政の事前運動ですでにゆがめられています。そんなアンケート調査の計画は即刻やめるべきです。すくなくとも住民投票のほうがはるかにましです。皆さん、事実をしっかり見つめてください。

煙突に「ようこそ白馬」と書くそうな？・・・何考えとるんじゃ（ごみ人知れず）

村分けて争うよりもごみ減らそう・・・こっちが先や！（おそまつ）

川柳や掲載文章募集中！　あなたのお気持ちをお聞かせ下さい。

白馬新ごみ処理施設を考える連絡協議会ニュース
発行：白馬新ごみ処理施設を考える連絡協議会（会長：宮田温巳）
白馬村北城八方口5897-1（たきみや）　＜事務局＞TEL：0261-72-2527　FAX：0261-72-7937

皆様の一層のご支援をお願いいたします！
カンパ振込先　●八十二銀行白馬支店／普通口座：137464
名義：ハクバゴミモンダイカンパ　●ゆうちょ銀行／口座記号番号
00520-2-83674／名義：白馬新ごみ処理施設を考える連絡協議会